

2021年3月17日

## 通貨ニュース

# 東南アジア: ASEAN-5 のワクチン実用化の動きについて

### 20年はベトナムが主要国で唯一のプラス成長、21年は軒並み回復へ

20年の ASEAN 経済は大きな減速を経験した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界各国のロックダウン実施によって、大きく需要が減速し、ASEAN-5 ではベトナムが辛うじてプラス成長となったものの、その他の国はアジア通貨危機やリーマン・ショック以来の景気後退の年となった(図表 1)。21年に関しては、各国の継続した政策支援とワクチンの実用化が経済活動を活性化させるという前提のもと、概ね 20 年に下げ幅が大きかった国ほど、経済は改善する見込みとなっている。以下では各国の最新の感染拡大状況とワクチン実用化への動きについて焦点を当てたい。

### 各国の感染状況とワクチン接種状況について

同じ ASEAN 地域であっても感染拡大状況には大きな差がみられる。域内最大の人口を擁するインドネシアでは 100 万人以上の累計感染者が確認された一方で、感染者封じ込めに成果を上げたタイでは数万人、ベトナムに至っては数千人にとどまっている(図表 2)。ワクチン接種に関しては、そのインドネシアを皮切りに、その他の国でも医療関係者を中心として開始されている。ただし、報道によれば域内各国での接種のスピードや規模に現状大きな差は見られていないようだ。

各国政府は今後もワクチンの確保に奔走するものとみられるが、図表 2 に示した通り、国によってワクチン生産国や供給網が異なっており、今後にかけて普及スピードに差が生まれるものと考えられる。また、直近では英国製ワクチンに副作用が出たことが報道されるなど、効用や安全性が確認されるまでの時間にも違いが生じることが想定される。その他、ASEAN 地域においてもウイルスの変異種による発症が報告されている点にも引き続き注意が必要だろう。

これらの動向によって、21 年の各国の成長率は上方にも下方にも変化する可能性があるが、概してプラスの影響の方が大きいのではないかと。理由としては一足早くワクチンの接種が拡大している米国や英国など一部先進国では目に見えた新規感染者数の減少が確認されており、サービス業の営業規制の緩和の報道も相次いでいる。ASEAN 諸国においても特に年後半にかけてワクチンの普及に伴う経済活動の正常化の動きは強まりそうである。

### ワクチンの実用化の進展による為替への影響は

最後に、足許と今後の相場動向について整理する。年初来で見ると、米金利上昇を主因とするドル高の影響で ASEAN 通貨は軒並み値を下げの展開となっている(図表 3)。今後も米国でのワクチン普及の加速に伴う、景況感の改善と経済成長への期待が金利上昇圧力となる構図は続きそうであり、各国通貨は米金利とドルの動向を窺う格好で値動きするものとみられる。ただし、ASEAN

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

[takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp](mailto:takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp)

各国においてもワクチンの効果が次第に確認されれば、一時的なドル高の後は調整局面に向かうと予想する。

一方、ASEAN 各国の 10 年債利回りの動向には注意したい。足許の米金利の動きに追随する格好で利回りは上昇基調となっている(図表 3)。コロナ禍において各国政府は支出を拡大しており、予期せぬ金利の上昇を市場は嫌気する可能性が考えられる。加えて、債券利回りの騰勢が市中金利にも波及することで民間部門の資金調達環境にも変化が出ることも想定される。こうした場合には、中銀は景気回復を加速させるべく、企業の資金繰りをサポートする施策の継続とともに金融機関の与信状況にも慮った運営が必要となるだろう。

**図表 1: ASEAN-5 の成長率(前年比%)**

	2020	2021
インドネシア	▲2.1%	6.1%
マレーシア	▲5.6%	7.8%
フィリピン	▲9.5%	7.4%
タイ	▲6.1%	4.0%
ベトナム	2.9%	6.7%

出所: CEIC、IMF、みずほ銀行 ※21 年は予想値

**図表 2: ASEAN-5 の感染状況とワクチン接種状況**

	累計感染者数 (万人)	ワクチン接種 開始時期	ワクチン産国
インドネシア	142	1月上旬	中国
マレーシア	32	2月下旬	英国、ドイツ
フィリピン	63	3月上旬	中国
タイ	3	2月下旬	英国、中国
ベトナム	0.2	3月上旬	英国

出所: 各国報道よりみずほ銀行作成 ※累計感染者は 3 月 15 日時点

**図表 3: 年初来の為替と 10 年債利回りの変化**

	為替騰落率 (%)	10年債利回り 上昇幅(%pts)
インドネシア	▲2.45	0.79
マレーシア	▲2.18	0.62
フィリピン	▲1.07	1.38
タイ	▲2.54	0.71
ベトナム	▲0.01	0.03

出所: macrobond、Bloomberg、みずほ銀行 ※3 月 15 日時点

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。